

# 福岡県飯塚市幸袋 築120年古民家『聴福庵』 2017年のあゆみ⑤

第25号 2017年8月21日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢

## 古井戸掘りプロジェクト進行中

今回、8月1日～2日まで、聴福庵に滞在していました。  
本誌、第22号に引き続き、古井戸掘りを行いました。  
井戸屋の赤坂さんにご協力を頂き、深く深く掘り進めていきました。



掘りはじめたばかりの井戸



土などを運び出した土嚢

## 2017年8月1日（火）

### 井戸掘り

井戸の蓋、ブロック等重量の重い物を釣瓶を使い運び出しました。

## 2017年8月2日（水）

### 井戸掘り、厨房天井の煤竹括り作業、梅干し、福岡農園草刈り

井戸屋の赤坂さんに来て頂き、掘り方のレクチャーとお手製の梯子、垂直に掘れる道具を貸して頂きました。水が染み出てから+2m程掘っておいた方がいいということも教わりました。掘り進めること5日。ついに水が染み出しくるぶし位までは水が溜まる状況です。また、先月甕に入れていた梅の天日干しも行いました。



4.5m地点の井戸の中から見上げた景色

---

## 古井戸の甦生

---

井戸には水の神様が宿っているという言い伝えがあり、昔から埋めてはいけないということも言われているそうです。

そして、埋める際にはお祓いをし、埋める材料には川砂や碎石などが使われ、コンクリートや廃材は決して用いてはいけないようです。しかし前ページの図を見て頂くと、1.5m~4.5m辺りは食器や廃材など様々なものがありました。

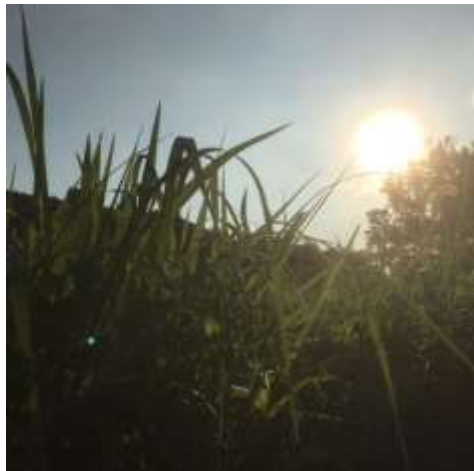
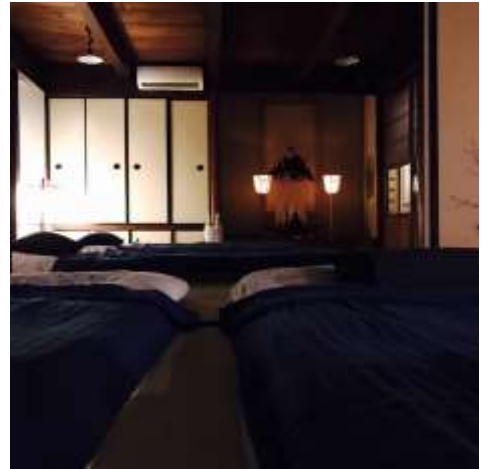
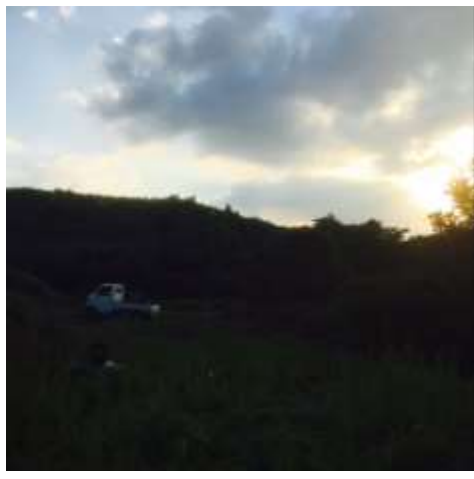
### 『聴福庵』当主の野見山は、古井戸についてこう言います。

「私にとっての甦生は、この古井戸の甦生と同様に現代ではいなくなってきたものを拾い、それを新しくしていくプロセスを通して子孫へと伝承していくものです。ただ水が欲しいから井戸を掘るのではなく、ただ珍しいから竈を使うわけではありません。本来、大切にしてきたものを粗末にしていく現代においてなぜそれが大切であったのかを教え諭すためです。学問が今ではただの受験勉強のようにすぐ換っている様相を見せる現代において、本来の学問とは教えずにして教え、学ばずにして学ぶものであったということをこの寺小屋のような古民家甦生を通して伝承していくのです。日本の家は私たちの日本の精神を磨かせ、日本の道具や暮らしはそれを活かすことによって文化を伝道してきた継承の仕組みを支えているのです。」

(2017年8月3日 かなながらブログより)



この梯子が埋まってしまう深さ





富山の古民家から譲って頂いた煤竹



ついに水が出ました！

## ●過去のバックナンバー

### 第22号

築120年古民家『聴福庵』③

### 第23号

築120年古民家『聴福庵』④番外編

### 第24号

臥竜塾年間講座③

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

## 聴福庵を通して感じること

井戸を掘っている最中、Line を使い写真を適宜カグヤのグループに発信していました。

目の前で井戸を掘っている身としては、作業後に before after を見てこんなに掘ったのか！と改めて実感するのですが、社内にいるクルーからは「まるで自分も一緒に掘っているみたい！」と言っていました。

一緒に井戸を掘っていた大河内さんは「お皿をスコップで割るのは忍びない…」と一枚一枚拾い上げ、バケツに入れて運び出していました。

投げ捨てられ、埋められているからゴミと見なすか、かつてあった暮らしに想いを馳せ、自分たちは今何のために行っているのだろうか？そんなことを突き付けられているようにさえ感じました。

井戸の中はというと、狭くて暗くて、でもなぜか落ち着くような感覚がありました。狭い中での作業のため、スコップを使うにも工夫が必要だったり、上にいる人はバケツを引っ張り上げ、土嚢に入れ運び出すといった、中々の重労働ではありますが、自分の人生においてまさか井戸を掘ることになるとは思ってもいませんでした。

そして、ついにその時はやってきました。水が浸み出てきた時は「本当に出た～、よかった」と歓喜よりも安堵しました。

本当に水は出るのか？という半信半疑なところからはじまり、水が出て井戸掘りもあと一歩のところまでできました。

蝶や蝉、トンボがどこからかやって来て鳴いて舞う姿には、水神様からの労いかなと、そんなことを思わせる自然の姿を感じました。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。